

設問別調査結果 [小学校国語A:主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（％）	
			札幌市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	◇	83.2
	書くこと	2	◇	67.7
	読むこと	2	◆	74.1
	言語事項	11	◆	85.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	—	60.3
	話す・聞く能力	1	◇	83.2
	書く能力	2	◇	67.7
	読む能力	2	◆	74.1
	言語についての知識・理解・技能	11	◆	85.8
問題形式	選択式	5	◆	80.8
	短答式	10	◆	84.6
	記述式	0		

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国 (公立)	
			話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 ○・・・+3.1ポイント以上 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント —・・・ほぼ同程度 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント ●・・・-3.1ポイント以下													
1ー（１）	漢字を読む（新しいクラスに慣れる）	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む				○		○		◆	0.7	96.2	1.0
1ー（２）	漢字を読む（本の目次を見る）					○		○		◇	1.0	96.0	1.2
1ー（３）	漢字を読む（いつも清潔なハンカチを持つ）					○		○		◆	1.2	96.5	1.2
1二（１）	漢字を書く（ひさしぶりにおじさんに会う）	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く				○		○		◆	14.5	80.1	11.5
1二（２）	漢字を書く（ぎじゅつが進歩する）					○		○		●	10.2	74.7	5.8
1二（３）	漢字を書く（星の位置がへんかする）					○		○		◆	4.8	90.3	3.4
2	説明的な文章の中に入る適切な言葉を選択する	説明的な文章の内容を的確に押さえながら読む			○			○		◆	0.6	83.3	0.5
3	物語の登場人物の関係をとらえて書く	文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読む			○			○		◆	2.6	65.0	1.8
4	メモを基にして、児童会だよりの中に入る適切な内容を書く	文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く		○		○		○		—	2.0	60.3	2.0
5	意見文に書く内容をまとめた4枚のカードを構成した順番に並べ替える	自分の考えが明確になるように、文章全体の構成の効果を考えて書く		○				○		◇	1.1	75.0	0.8
6	見学したことの説明の工夫として適切なものを選択する	聞き手が理解しやすいように、話の全体の構成を工夫する	○					○		◇	1.1	83.2	1.0
7	国語辞典を利用して、複数の言葉の意味の中から適切なものを選択する	文脈に適した多義語の意味を理解する				○	○			◇	1.5	81.4	1.3
8	共通語と方言の使われ方として適切なものを選択する	共通語と方言との違いを押さえ、それぞれの使われ方を理解する				○	○			◆	2.8	81.0	2.3
9ア	二つの言葉を組み合わせて、一つの言葉にして書く	語句の構成や語形の変化を理解する				○		○		◆	3.0	95.3	2.7
9イ	一つの言葉を二つの言葉に分けて書く						○	○		◆	3.5	91.6	3.0

【設問分析】

1 漢字の読み書き

①は、学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるための設問である。設問一は漢字を読むことについて、設問二は漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

【設問一】漢字を読むこと

- (1) 5年生の配当漢字である「慣」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (2) 1年生の配当漢字である「目」と3年生の配当漢字である「次」の熟語「目次」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (3) 4年生の配当漢字である「清」と5年生の配当漢字である「潔」の熟語「清潔」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】漢字を書くこと

- (1) 5年生の配当漢字である「ひさしぶり」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (2) 5年生の配当漢字である「ぎ」と「じゅつ」の熟語「ぎじゅつ」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (3) 4年生の配当漢字である「へん」と3年生の漢字「か」の熟語である「へんか」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率をやや下回っている。

言語事項における「漢字を読むこと」については、全国の平均正答率と比較すると、三問中二問でやや下回っており、今後も漢字の読みについて確実な定着が求められる。また、「漢字を書くこと」については、全国の平均正答率を下回っている。

これまでの札幌市の独自調査及び昨年度の調査においても、「漢字を書くこと」について、課題が見られており、国語辞典や漢字辞典を積極的に利用して調べる習慣を付けるとともに、普段の学習や生活の中で定着を図る指導を一層工夫していくことが重要である。また、学年の進行に合わせて語彙の拡充を図るとともに、獲得した語彙を、漢字を使って表現できるようにすることが重要である。そのためには、特に同音異義や同訓異義の漢字に気を付けて、漢字がもつ意味を考えながら正しく使う習慣が身に付くように指導することが重要である。

2 文章の内容把握

②は、説明的な文章を読み、文と文との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する問題である。一文一文のもつ意味を理解しながら、中心となる語句や文に着目し、祭りに出る店の数と集まる人の数の相関関係を的確に押さえて読むことが求められる。

・この問題では、全国の平均正答率をやや下回っている。

「読むこと」領域における「説明的な文章の内容を的確に押さえながら読むこと」については、全国の平均正答率をやや下回っている。また、無解答率は全国をやや上回っている。今後は、本や文章を読む目的に応じて、中心となる語や文を用いて要点をまとめたり、小見出しを付けたりして、内容を整理するなどの指導とともに、筆者がどのような判断や主張をしようとし、どのような事実を挙げて理由や根拠としているかなどを区別して押さえ、文章全体の構成をとらえることができるような指導の充実が必要である。

3 登場人物を関係付けて読む

③は、文学的な文章に登場する人物を相互に関連付けて読むことができるかどうかをみるための設問であり、物語の一部を読み、描写に着目しながら登場する人物の相互関係をとらえて書くものである。

・この設問では、全国の平均正答率をやや下回っている。

文学的な文章に登場する人物を関係付けて読むことについては、全国の平均正答率をやや下回っていることから、目的に応じて物語をはじめとする様々な文学的な文章を授業の中で計画的に取り上げ、優れた叙述などについて自分の考えをまとめることができるように指導するとともに、行動や会話、情景などについての叙述に着目し、それぞれの人物像や役割をとらえ、人物相互の関係を整理しながら読むことができるような指導を充実することが必要である。

4 文の論理を考えて書く

④は、文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くことができるかどうかをみる設問であり、「児童会だより」の一部に、運動会について伝えたい内容を、メモを基にして文の論理を考えながら、指示された文の構成に合わせて、二文を一文にして書くものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率とほぼ同程度であるが、全国の平均正答率も札幌市も、正答率はやや低い状況である。

「書くこと」領域と言語事項にかかわる「文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く」については、全国の平均正答率は6割とやや低い状況であり、札幌市も同様の結果となっている。目的に応じて、文や文章を適切に書き換えることに課題がある。国語の学習のみならず、各教科等の学習においても、例えば、原因となる一文と結果を表す一文とを合わせて一文にまとめたり、その反対に複文や重文を接続語を使って二文に書き分けたりするように意図的に指導することが大切である。そのためには、目的や意図を明確にした上で、多様な条件を提示し、それらに合わせて適切に書くことができるように指導することが大切である。

5 意見文の構成の効果を考えて書く

⑤は、自分の考えが明確になるように、文章全体の構成の効果を考えて書くことができるかどうかをみる設問である。意見文に書く内容をまとめたカードを、指示された構成の順番に並べ替えるものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。

「書くこと」領域にかかわる「自分の考えが明確になるように、文章全体の構成の効果を考えて書くこと」については、全国の平均正答率をやや上回っている。冒頭部に体験に基づく身近な事実や見聞きした事実などを配置し、それらに合わせて問題を提示すること、展開部においては、事象と感想、意見などを区別すること、結びでは、冒頭に提示した問題に対する自分の考えを明確にするなどの文章全体の構成の型を押さえることが大切である。同時に、取材の段階から文章全体の構成を意識するようにすることや、構成の段階においても、目的や意図を踏まえ、読み手への効果を考えるような指導も効果的である。

6 話の全体の構成を工夫する

⑥は、聞き手が理解しやすいように、話の全体の構成を工夫することができるかどうかをみるための設問である。見学したことを基に、分かったことや考えたことを説明するときの工夫として適切なものを選択するものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「話の全体の構成を工夫すること」については、全国の平均正答率と比較するとやや上回っている。スピーチには、事物や出来事について説明するものや調査の報告をするものなど、様々な種類がある。指導に当たっては、説明や報告、紹介など、それぞれの特徴を踏まえて構成を工夫することや、話の意図が聞き手に明確に伝わるように、事象と感想、意見とを区別して話すことなどを日常的な指導において重視していくことが大切である。

7 多義語の意味を理解する

〔7〕は、文脈に適した多義語の意味を理解することができるかどうかをみる設問である。多義語の意味について、国語辞典を利用して調べた内容から適切なものを選択する問題であり、国語辞典に示されたそれぞれの意味と例文とを関係付けた上で、文脈に適した意味を適切に捉えることが求められる問題である。

・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「言語事項」における「国語辞典を利用して、複数の言葉の意味の中から適切なものを選択すること」については、全国の平均正答率と比較するとやや上回っている。今後の指導においては、辞書を積極的に利用して多義語の意味を調べるように指導することが大切である。また、第5・6学年において、国語科の授業に様々な読書活動を取り入れ、多くの文章を繰り返して読んだり、優れた表現を抜き出したりするなどし、多様な言葉のリズムをはじめ、表現の柔らかさ、美しさなどに対する感覚を豊かにすることができるようにする指導に重点を置くことが重要である。

8 共通語と方言の使われ方を理解する

〔9〕は、共通語と方言との違いを押さえ、それぞれの使われ方を理解することができるかどうかをみる設問である。共通語と方言の使われ方として適切なものをそれぞれ選択する問題である。

・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「言語事項」における「共通語と方言の使われ方を理解すること」については、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。様々な文脈の中で使われている共通語と方言を取り出して、比較、対照しながら整理するなどの活動を通して、それぞれの特質を理解できるように指導することが大切である。

小学校学習指導要領国語においては、共通語と方言の指導について、従前は〔言語事項〕に示していたが、話すこと・聞くことの実際の場面における重要性を考慮して、「A話すこと・聞くこと」の第5・6学年の指導事項として位置付けている。

9 複合語の構成を理解する

〔8〕は、語句の構成や語形の変化を理解することができるかどうかをみる設問である。例を基にして語形を変化させ、アでは、二つの語を適切に組み合わせること、イでは一つの複合語を適切に分けることが求められる問題である。

・この設問では、ア、イともに全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「言語事項」における「複合語の構成を理解すること」については、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。語句の構成には、複合語のほかに、お米の「お」のような接頭語、お父さんの「さん」のような接尾語、略語、慣用語などがある。また、語句の変化については、本問題のような語形の変化のほかに、例えば「花+畑」で「ハナバタケ」というような音の変化、「物」と「物物しい」のような意味の変化などがある。指導においては、これらの語句の構成や語形の変化などについての理解を深め、語句の拡充を図ることが重要である。

設問別調査結果 [小学校国語B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（％）	
			札幌市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	◆	75.4
	書くこと	2	—	91.6
	読むこと	4	◆	73.4
	言語事項	1	◆	73.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	◆	79.5
	話す・聞く能力	4	◆	75.4
	書く能力	2	—	91.6
	読む能力	4	◆	73.4
	言語についての知識・理解・技能	1	◆	73.0
問題形式	選択式	4	◆	75.3
	短答式	2	—	91.6
	記述式	4	◆	73.5

設問別集計結果

設問番号
 設問の概要
 出題の趣旨
 学習指導要領の領域等
 問題形式
 札幌市
 全国（公立）

話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率（％）	無解答率（％）	正答率（％）	無解答率（％）		
下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 ○・・・＋3.1ポイント以上 ◇・・・＋0.1ポイント～3.0ポイント —・・・ほぼ同程度 ◆・・・－0.1ポイント～－3.0ポイント ●・・・－3.1ポイント以下												
1ア	学校新聞に対する二つの意見の共通点を書く	目的や意図に応じて、読み手が評価した内容を整理し、表現の効果などについて確かめたり工夫したりする		○			○	◆	2.9	93.7	2.0	
1イ	学校新聞に対する二つの意見の相違点を書く			○			○	◇	3.4	89.5	2.5	
2一（１）	物語を読んで、指示された部分についてのあらすじを書く	登場人物の行動や場面の移り変わりに注意しながら、あらすじを書く			○	○		○	◆	6.6	73.0	5.3
2一（２）	物語を読んで、発表した内容の中に入る適切な言葉を選択する	物語全体の構成の効果をとらえる			○		○	◆	2.9	72.9	2.0	
2二	物語を読んで思ったことや考えたことと、その理由を書く	物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にまとめて書く			○			○	◆	9.4	82.3	7.8
3一①	発表の中で写真を示す場面として適切な箇所を選択する	伝えたいことと資料とを関係付け、資料を効果的に提示して話す	○				○	◆	3.1	80.7	2.0	
3一②			○				○	◆	3.2	77.9	2.1	
3二	話し手が聞き手に問いかけるよさについての説明を書く	目的や意図に応じて、聞き手を引き付けるように話す	○					○	◆	13.1	73.0	11.2
3三	聞き手が質問した内容に合う質問の観点を選択する	話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問する	○				○	◆	5.8	69.9	4.3	
4	三つの時計の中から、条件に合ったものを選び、それを選んだ理由を書く	目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明する		○				○	◆	4.1	65.5	3.0

【設問別分析】

1 読み手の評価を生かす〈学校新聞〉

①は、目的や意図に応じて、読み手が評価した内容を整理し、表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができるかどうかをみるための設問である。ここでは、発行した学校新聞に対して読み手が評価した二つの内容について、意見とその根拠や理由を整理した上で、学校新聞における表現の効果などについて確かめたり工夫したりする能力や態度が求められる問題である。

- ・アの学校新聞に対する二つの意見の共通点を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- ・イの学校新聞に対する二つの意見の相違点を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」領域における「読み手の評価を生かすこと」については、二問中一問で全国の平均正答率をやや下回っている。指導にあたっては、書くことの一連の過程において、自分の考えが効果的に表現されているかどうかを、読み手に評価してもらう学習活動を取り入れることが重要である。このことにより、書き手は表現のよさを確認することができるとともに、改善できる部分についてよりよいものにしていくことができる。なお、小学校学習指導要領では、「B書くこと」の内容として、「交流に関する指導事項」を設定している。その中で、書いたものを読み合い、感想や意見を述べたり、表現の仕方に着目して助言し合ったりすることが示されている。

2 読書発表会をする〈つりずきの宇宙人〉

②は、目的や意図に応じて、文章の内容や構成の効果をとらえ、自分の考えをまとめることができるかどうかをみるための設問である。

【設問一】

- (1) 登場人物の行動や場面の移り変わりに注意しながら、あらすじを書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (2) 自分の考えをまとめるために、表現の仕方や優れた叙述に着目しながら、物語全体の構成の効果をとらえる問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にしてまとめて書くことができるかどうかをみるための設問である。

・物語を読んで、登場人物の行動や場面についての描写など、優れた叙述について自分が思ったことや考えたことを、理由を明確にしてまとめて書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域にかかわる「目的や意図に応じて、文章の内容や構成の効果をとらえ、自分の考えをまとめること」については、札幌市は、全国の平均正答率をやや下回っている。今後、物語全体の構成や展開に着目して作品を読むことと、特定の叙述に着目して読むことを螺旋的・反復的に繰り返していくなど、読みの重層化を図るとともに、柔軟な指導過程の構想をすること、読みの視点を持ち、今までの読書経験や体験などと関連付け、感じたことや考えたことなどをまとめながら読むことができるように指導することが大切である。また、物語を読んで思ったことや考えたことを発表し合うといった読書発表会などの言語活動を設定して指導することが大切である。

3 写真を使って発表する〈家の屋根の形〉

③は、目的や意図に応じて、資料を活用しながら話し方を工夫したり、話の中心や話し手の意図をとらえて質問したりすることができるかどうかをみるための設問である。

【設問一】発表において、写真を提示する適切な箇所を選択する問題である。

・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】発表において、話し手が聞き手に問いかけることのよさについて説明することができるかどうかをみるための問題である。

・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】話し手への質問がどのような観点によるものであるかを考え、適切なものを選択することができるかどうかをみるための問題である。

・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「目的や意図に応じて、資料を活用しながら話し方を工夫すること」については、全国の平均正答率と比較してやや下回っている。「話の中心や話し手の意図をとらえながら質問すること」についても、全国の平均正答率と比較してやや下回っている。今後は、本や文章、実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などの中から、相手や目的、意図、場や状況に応じた適切な資料及びそれらの情報を取り上げ、効果的な場面や方法で活用できるように、話の全体の構成と資料や情報との整合性などを考慮するような指導や、話し方の工夫についての具体的な指導、話し手の意図を考え、伝えたい事柄をより深めるための質問、自分の理解度を確認するための質問、取材や構成時の工夫についての質問、自分の意見と比べるための質問などのような、質問の観点などを理解し、実際に話し合う場面などにおいて、聞き手が適切に質問することができるように具体的に指導することを計画的に行っていくことが必要である。

4 情報を関連付けて読む〈目覚まし時計〉

4 は、目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明することができるかどうかをみるための設問である。

- ・ この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域にかかわる「情報を関連付けて読むこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っており、全国の平均正答率も低い状況にある。複数の資料を比べて読み、資料の情報と決定した条件とを関係付けながら、理由を明確にして説明する能力を高めるために、教材として複数の文章や資料を取り上げ、具体的な言語活動を設定して指導することが重要である。また、楽しむためや調べるためなど、読む目的や意図に応じて本や文章を選び、的確に内容を押さえて読むことが必要である。

国語学習に関する意識結果 【小学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	30.4	37.2	21.9	10.5
国語の勉強は大切だと思いますか	67.6	24.6	5.8	1.8
国語の授業の内容はよく分かりますか	38.8	44.6	12.8	3.7
読書は好きですか	52.8	23.2	14.5	9.4
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	52.4	33.2	10.4	3.9
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	18.5	39.2	33.9	8.3
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	18.3	38.2	33.0	10.3
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	27.5	39.0	26.7	6.5
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	32.6	40.4	19.9	6.8

（単位は％）

＜設問分析＞

- 「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、67.6 %となっており、全国平均を5.5ポイント上回っている。また、昨年度の調査よりも肯定的な回答が4.1ポイント上回っている。今後とも、引き続き児童の興味関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、92.2 %と高くなっており、さらに、全国平均を0.6ポイント上回っている。今後とも、言語活動を取り入れた学習や、実生活に生きてはたらく体験的な学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値に気付くような授業を行うことが求められる。
- 「国語の授業の内容はよくわかりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、83.4 %となっており、全国平均を1.1ポイント上回っている。また、昨年度の調査よりも2.5ポイント上回っている。今後とも、児童の実態に即した指導や、意欲を喚起する学習内容、基礎的基本的な指導事項の習熟とともに、個に応じた指導の充実を図ることが求められる。
- 「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、76.0%となっており、全国平均を3ポイント上回っており、さらに、昨年度の調査よりも、肯定的な回答が1.1ポイント上回っている。札幌市では、昨年度から一斉読書の推進に取り組んでおり、小学校での実施率はほぼ100%である。今後とも、国語の授業だけでなく、様々な機会をとおして、児童の読書活動の一層の促進に取り組むことが求められる。

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、85.6%となっており、全国平均を 1.7 ポイント下回っている。昨年度の調査の結果より 0.3 ポイント上回っているものの、今後、日常生活に生きてはたらく言語活動を通した指導の充実を図るとともに、児童が国語の学習の有用性を実感できる指導を一層工夫改善していくことが求められる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、57.7%となっており、全国平均を 2.4 ポイント下回っている。また、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、56.5%となっており、全国平均を 2.1 ポイント下回っている。今後とも、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導において、相手や目的、意図に応じて、自分の考えを持ち、組み立てなどを工夫する学習活動を位置付けていくことが求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、66.5%となっており、全国平均を 2.7 ポイント下回っている。昨年度の調査よりも 0.7%上回っているものの、今後とも、児童が自分の考えをもって、その理由を書いたり話し合ったりする言語活動をととした授業を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、73.0 %となっており、全国平均を 0.4 ポイント下回っている。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識したりしながら読む指導の一層の充実が求められる。